

(d) 圍繞景觀の状況

a) 景觀区の区分

既存調査において区分した陸上部の景觀区分に、海域の景觀区分を追加し、植物の現地調査結果をもとに修正し、景觀区の区分を行いました。なお、海域については、サンゴ・藻場等の現地調査結果を元に、サンゴ礁が高被度（25%以上）で分布する区域をサンゴ景觀区、海草藻場及びガラモ場が高被度（25%以上）で分布する区域を藻場景觀区、干潟調査の調査範囲を干潟景觀区としました。

区分した景觀区の分布状況は図-6.20.1.79に、各区分ごとの面積は表-6.20.1.50に示すとおりです。

表-6.20.1.50 圍繞景觀の区分と調査範囲内の面積

単位：ha

景觀区分		現況 (ha)	
陸域	米軍施設外	樹林地（山地）	667.3
		樹林地（平地）	1,343.5
		耕作地・牧草地等	869.9
		島嶼	9.8
		草地・湿地	85.8
		開放水域	19.8
		砂浜等	89.4
		集落・人工地等	101.0
	米軍施設内	樹林地（山地）	364.8
		樹林地（平地）	737.8
		耕作地・牧草地等	42.0
		草地	63.9
		開放水域	6.7
		砂浜等	19.6
		集落・人工地等	115.8
		海域	干潟
サンゴ	25.2		
藻場	422.4		
その他海域	5,741.3		
合計		10,875.0	



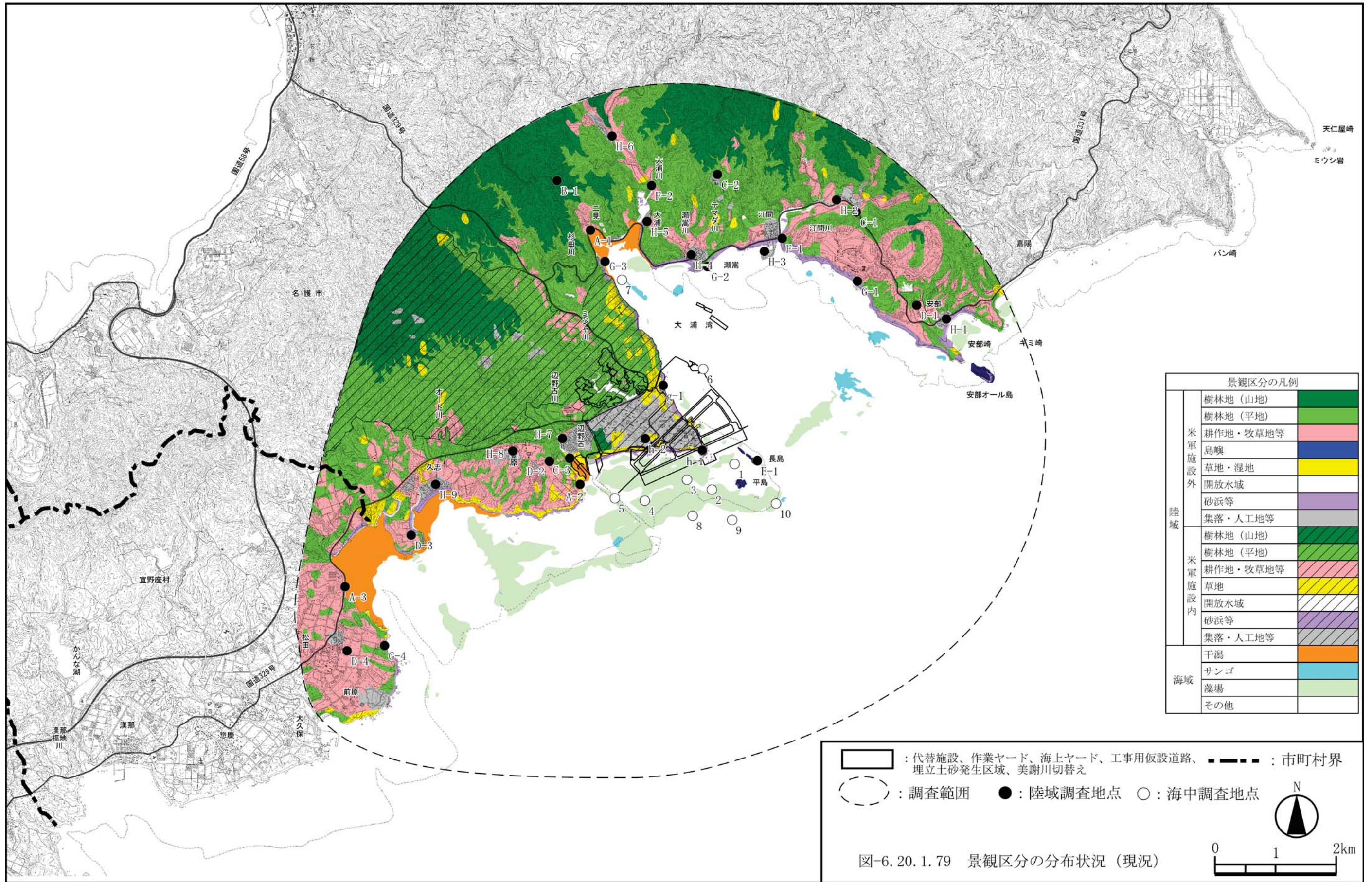


図-6.20.1.79 景観区分の分布状況 (現況)

b) 景観区ごとの場の状態及び利用の状況

景観区ごとの場の状態及び利用の状況について、調査地点ごとの調査結果は表-6. 20. 1. 51～表-6. 20. 1. 55に示すとおりです。

表-6. 20. 1. 51 場の状態及び利用の状況 (1/5)

景観区分	地点	地点名	場の状態	利用の状況		
陸域	米軍施設外	樹林地(山地)	B-1	二見区 林道	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 標高150m、傾斜3.66°。</li> <li>・ 現存植生はリュウキュウアオキースダジイ群集。</li> <li>・ 国道331号から旧レキオリゾートの前を通り、登攀していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自動車の通過交通や休憩、サイクリング等の利用がある。</li> <li>・ 国道側の入口が分かり難いため、外来利用者は少なく、地元住民(名護市)による利用が主体である。</li> <li>・ 国道からすぐにアクセスできるが、入口が分かり難く、道幅も広くないため、交通量はそれほど多くない。</li> </ul>
		樹林地(平地)	C-1	三原橋	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 標高4m、傾斜8.65°。</li> <li>・ 現存植生はリュウキュウマツ群落。</li> <li>・ 国道331号上にある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日常的な風景鑑賞、休憩、農作業、自動車の通過交通等の利用がある。</li> <li>・ 国道331号上にあるため、不特定多数の利用がある。</li> <li>・ 民家や農地があり、地元住民の日常的な利用の他、国道331号の通過交通もあり、多くの利用がある。</li> </ul>
			C-2	瀬嵩林道	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 標高75m、傾斜6.02°。</li> <li>・ 現存植生はリュウキュウマツ群落。</li> <li>・ 瀬嵩集落から名護学院の前を通り、登攀していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自動車の通過交通、名護学院の課外授業、サイクリング等の利用がある。</li> <li>・ 地元住民、名護学院関係者、観光客の利用がある。</li> <li>・ 名護学院が近隣にあるため、その関係者の利用の他、多野岳や一ツ岳へのアクセスルートにもなっていることから観光利用も見込め、比較的多くの利用がある。</li> </ul>
	C-3		辺野古 前上原 公園	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 標高10m、傾斜5.61°。</li> <li>・ 現存植生はナガミボチョウジークスノハカエデ群落。</li> <li>・ 県道13号線沿いにあり、近傍に辺野古交流プラザがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日常的な風景鑑賞、日常的な子供の遊び場、休憩等の利用がある。</li> <li>・ 辺野古地区中心地に近く、屋根付き休憩所(東屋)やトイレもあるため、地元住民だけでなく、不特定多数の利用者がある。</li> <li>・ 公園高台にある平和之塔や漁港棧橋にある神社への参拝利用もある。</li> <li>・ 人と自然との触れ合いの場調査におけるカウント調査結果によると、夏季平日34人、夏季休日28人、冬季平日26人、冬季休日55人、秋季平日117人、秋季休日85人、春季平日33人、春季休日108人の利用があった(ただし、労働者はカウントしていない)。</li> </ul>	
	耕作地・牧草地等	D-1	安部区 農地	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 標高18m、傾斜5.76°。</li> <li>・ 現存植生は休耕田雑草群落。</li> <li>・ 国道331号から内陸側へ入ったところがあり、近傍に安部ダムがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 農業等の利用がある。</li> <li>・ 安部地区集落の近くにあるが、側道(農道)に入らないとアクセスできないため、外来利用者は少なく、地元の農耕関係者による利用が主体である。</li> <li>・ 地元住民による利用がある(H20.4.1現在安部地区の人口175人)。</li> </ul>	
		D-2	辺野古 区農地	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 標高30m、傾斜0.61°。</li> <li>・ 現存植生は畑地雑草群落。</li> <li>・ 県道13号線のショートカットルート沿いにある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日常生活利用、農業、通過交通等の利用がある。</li> <li>・ 辺野古地区・豊原地区集落の近くであり、地元住民による利用がある。</li> <li>・ 地元住民による利用がある(H20.4.1現在辺野古・豊原地区の人口2,412人)。</li> </ul>	
		D-3	久志区 農地	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 標高3m、傾斜2.91°。</li> <li>・ 現存植生は畑地雑草群落。</li> <li>・ 県道13号線から加知味崎方向に入った側道(農道)を進む。</li> <li>・ 景観資源である久志岳及び辺野古岳の好展望ポイントである。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 農業、通過交通(加知味崎での釣り・潮干狩り目的)等の利用がある。</li> <li>・ 視点へのアクセス道が農道のため、外来利用者は少なく、地元住民による利用が主体である。</li> <li>・ 地元住民による利用がある(H20.4.1現在久志地区の人口621人)。</li> </ul>	

表-6. 20. 1. 52 場の状態及び利用の状況 (2/5)

景観区分	地点	地点名	場の状態	利用の状況
陸域 米軍施設外	耕作地・牧草地等	D-4	松田農村公園 ・ 標高34m、傾斜1.46°。 ・ 現存植生は畑地雑草群落。 ・ 国道329号から東側の側道を進み、松田地区公民館・松寿館近辺にある。	・ 地元住民の日常的な風景鑑賞、ゲートボール、子供の遊び場等の利用がある。 ・ 視点は、松田地区公民館に接する公園で、芝生広場や遊具が設置されており、地元住民による利用が主体である。 ・ 地元住民による利用がある (H20.9現在松田地区の人口1,363人)。
	島嶼	E-1	長島 ・ 標高10m、傾斜情報無し。 ・ 現存植生の情報は無い。 ・ 小型船舶で渡航することができる。	・ 地元住民の潮干狩りやバーベキュー、漁船の休憩場、観光等の利用がある。 ・ 地元住民だけでなく、観光利用もある。 ・ アクセスが船舶での渡航に限られる。
	草地・湿地	A-2	辺野古の浜 ・ 辺野古地区の砂浜に広がる湿地。湿地の周囲には草地も広がり、さらにその周囲には樹林も広がる。海岸方向には代替施設及び作業ヤード(辺野古港)が見渡せる。 ・ 事業実施区域が位置する代替施設方向の上空を臨む。視界は開けている。	・ 地元住民による日常的な風景鑑賞、夕涼み、潮干狩り等の利用がある。 ・ 辺野古地区中心地に近いが、アクセス道が細く、分かり難いため、外来利用者は少ないが、地元住民による利用が見られる。 ・ 地元住民による利用がある。(H20.4.1現在：辺野古区の人口1,993人)
	開放水域	F-1	汀間地区会館、嘉手苅橋 ・ 標高0m、傾斜は情報無し。 ・ 現存植生は開放水域。 ・ 国道331号沿いにある。	・ 日常生活利用、風景鑑賞、行事、水遊び、自動車の通過交通等の利用がある。 ・ 国道331号沿いにあるため、不特定多数の利用がある。 ・ 周囲には民家があり、地元住民の日常生活利用の他、国道331号の通過交通もあり、多くの利用がある。
		F-2	大浦のマングローブ林 ・ 標高2m、傾斜5.32°。 ・ 現存植生は開放水域。 ・ 県道18号線沿いにある。	・ 風景鑑賞、学術研究、カヌー、地元住民による潮干狩り等の利用がある。 ・ 大浦地区集落～大川地区集落の間にあり、地元住民の利用の他、マングローブの鑑賞目的の観光客や研究者等の外来利用者がある。 ・ 地元住民による利用もある (H20.4.1現在大浦・大川地区の人口167人)。
	砂浜等	G-1	カヌチャビーチ ・ 標高0m、傾斜4.38°。 ・ 現存植生はグンバイヒルガオ・クワイザサ群落。 ・ カヌチャリゾートの敷地内にある。	・ 海水浴、マリンスポーツ、散歩、写真撮影等の利用がある。 ・ 観光施設内であり、観光利用がほとんどである。 ・ 人と自然との触れ合いの場調査におけるカウント調査結果によると、夏季平日970人、夏季休日739人、秋季平日321人、秋季休日392人、冬季平日76人、冬季休日257人、春季平日300人、春季休日527人の利用があった(ただし、労働者はカウントしていない)。
		G-2	瀬嵩の浜 ・ 標高0m、傾斜は情報無し。 ・ 現存植生はアカテツ・ハマビワ群落。 ・ 国道331号沿いにある。	・ 日常的な風景鑑賞、海水浴、潮干狩り、サーフィンの利用がある。 ・ 地元ヒアリング結果によれば、視点の利用の大半は地元住民であるが、波の高い日にはサーファーの利用が多い。 ・ 人と自然との触れ合いの場調査におけるカウント調査結果によると、夏季平日32人、夏季休日27人、秋季平日37人、秋季休日131人、冬季平日5人、冬季休日85人、春季平日42人、春季休日49人の利用があった(ただし、労働者はカウントしていない)。

表-6. 20. 1. 53 場の状態及び利用の状況 (3/5)

景観区分		地点	地点名	場の状態	利用の状況	
陸域	米軍施設外	砂浜等	G-3	二見海岸	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 標高8m、傾斜12.16°。</li> <li>・ 現存植生の情報は無い。</li> <li>・ 二見コミュニティセンター東の崖下にある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 釣り、潮干狩り、日常的な風景鑑賞の利用が想定される。</li> <li>・ 地元ヒアリング結果によれば、外来利用者は少なく、地元住民による利用が主体である。</li> <li>・ 人と自然との触れ合いの場調査におけるカウント調査結果によると、夏季平日16人、夏季休日29人、秋季平日4人、秋季休日58人、冬季休日77人、春季平日11人、春季休日224人の利用があった（ただし、労働者はカウントしていない）。</li> </ul>
			G-4	ヒービー海岸交流広場	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 標高12m、傾斜5.77°。</li> <li>・ 現存植生はリュウキュウマツ群落。</li> <li>・ 県道234号線から側道を下りた先にある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地元住民による日常的な風景鑑賞、釣り、潮干狩り、キャンプ、バーベキュー等の利用が想定される。</li> <li>・ 幹線道路である県道234号線からのアクセス道が分かり難いこと、利用するには松田区長の許可が必要なことから、地元住民による利用が主体である。</li> <li>・ 人と自然との触れ合いの場調査におけるカウント調査結果によると、夏季平日24人、夏季休日36人、秋季平日8人、秋季休日26人、冬季平日8人、冬季休日39人、春季平日27人、春季休日165人の利用があった（ただし、労働者はカウントしていない）。</li> </ul>
	集落・人工地等		H-1	安部地区会館	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 標高6m、傾斜1.72°。</li> <li>・ 現存植生は市街地。</li> <li>・ 国道331号の側道のすぐ先にある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地元住民による日常的な生活利用、行事等の利用がある。</li> <li>・ 安部地区集落の中にあり、外来利用者は少なく、地元住民による利用が主体である。</li> <li>・ 地元住民による利用がある（H20.4.1現在安部地区の人口175人）。</li> </ul>
			H-2	三原地区会館	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 標高7m、傾斜0.69°。</li> <li>・ 現存植生はリュウキュウマツ群落。</li> <li>・ 国道331号沿いにある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日常的な生活利用、行事等の利用がある。</li> <li>・ 国道331号沿いにあるが、場所の性質上、外来利用者は少なく、地元住民による利用が主体である。</li> <li>・ 地元住民による利用がある（H20.4.1現在三原地区の人口346人）。</li> </ul>
			H-3	汀間漁港	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 標高0m、傾斜1.72°。</li> <li>・ 現存植生の情報は無い。</li> <li>・ 国道331号沿いにある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 漁、釣り等の利用がある。</li> <li>・ 漁港であるため、漁師の利用が主体である。また、時間を問わず、釣りの利用客が頻繁に見られる。</li> <li>・ 人と自然との触れ合いの場調査におけるカウント調査結果によると、夏季平日39人、夏季休日56人、秋季平日71人、秋季休日72人、冬季平日31人、冬季休日160人、春季平日42人、春季休日98人の利用があった（ただし、労働者はカウントしていない）。</li> </ul>
			H-4	瀬嵩区公民館	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 標高4m、傾斜2.73°。</li> <li>・ 現存植生は市街地。</li> <li>・ 国道331号から側道を陸側へ入ったところにある。近傍にはJAや交番、名護市役所支所がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地元住民による日常的な生活利用、行事等の利用がある。</li> <li>・ 瀬嵩地区集落の中心にあり、外来利用者は少なく、地元住民による利用が主体である。</li> <li>・ 地元住民による利用がある（H20.4.1現在瀬嵩地区の人口514人）。</li> </ul>
			H-5	大浦集落センター	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 標高5m、傾斜5.37°。</li> <li>・ 現存植生は市街地。</li> <li>・ 県道18号線から側道を陸側へ入ったところにある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地元住民による日常的な生活利用、行事等の利用がある。</li> <li>・ 大浦地区集落の中にあり、外来利用者は少なく、地元住民による利用が主体である。</li> <li>・ 地元住民による利用がある（H20.4.1現在大浦地区の人口93人）。</li> </ul>

表-6. 20. 1. 54 場の状態及び利用の状況 (4/5)

景観区分		地点	地点名	場の状態	利用の状況	
陸域	米軍施設外	集落・人工地等	H-6	大川集落センター	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 標高8m、傾斜9.28°。</li> <li>・ 現存植生は畑地雑草群</li> <li>・ 名護市街への抜け道である県道18号線沿いにある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地元住民の生活利用、行事、農業、水遊び、自動車の通過交通等の利用がある。</li> <li>・ 大川地区集落の近くにあり、地元住民の利用の他、県道18号線利用者の通過利用がある。</li> <li>・ 地元住民による利用 (H20. 4. 1現在大川地区の人口74人) と通過交通型の不特定多数の利用 (H17平日24時間、道路交通センサスによる県道18号線の交通量1,039台) がある。</li> </ul>
			H-7	辺野古交流プラザ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 標高3m、傾斜4.44°。</li> <li>・ 現存植生は市街地。</li> <li>・ 県道13号線沿いにある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地元住民による日常的な生活利用、行事等の利用がある。</li> <li>・ 辺野古地区集落の中にあり、外来利用者は少なく、地元住民による利用が主体である。</li> <li>・ 地元住民による利用がある (H20. 4. 1現在辺野古地区の人口1,993人)。</li> </ul>
			H-8	豊原地区会館	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 標高47m、傾斜1.48°。</li> <li>・ 現存植生は市街地。</li> <li>・ 県道13号線から側道を北側へ入ったところにある。</li> <li>・ 公民館西側には、地区のシンボルとなっている「躍進」が彫られた碑がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地元住民による日常的な生活利用、スポーツ (ゲートボール場、運動公園)、休憩等がある。</li> <li>・ 豊原地区集落の中にあり、外来利用者は少なく、地元住民による利用が主体である。</li> <li>・ 地元住民による利用がある (H20. 4. 1現在豊原地区の人口419人)。</li> </ul>
			H-9	久志区公民館	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 標高3m、傾斜3.85°。</li> <li>・ 現存植生は市街地。</li> <li>・ 県道13号線沿いにある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地元住民による日常的な生活利用、行事、休憩、子供の遊び場等の利用がある。</li> <li>・ 久志地区集落の中にあり、外来利用者は少なく、地元住民による利用が主体である。</li> <li>・ 地元住民による利用がある (H20. 4. 1現在久志地区の人口621人)。</li> </ul>
陸域	米軍施設内	砂浜等	g-1	米軍施設内ビーチ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 標高7m、傾斜4.85°。</li> <li>・ 現存植生はチガヤーススキ群落。</li> <li>・ キャンプ地区の北東部にあり、弾薬庫地区に接する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 米軍関係者による日常的な風景鑑賞、海水浴、演習の利用が想定される。</li> <li>・ 米軍施設内であるため、外来利用は米軍施設開放日を除いて想定されないが、キャンプ・シュワブ関係者の利用が想定される。</li> <li>・ 利用者数は不詳 (統計データなし)。利用者属性を考慮すれば、キャンプ・シュワブ駐留軍従業員数222人とほぼ同じ利用者数であると考えられる。</li> </ul>
			h-1	辺野古崎	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 標高1m、傾斜0.36°。</li> <li>・ 現存植生は市街地。</li> <li>・ キャンプ地区の南東にあり、代替施設予定地内である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 米軍関係者によるスポーツ、日常的な風景鑑賞、休憩の利用が想定される。</li> <li>・ 米軍施設内であるため、外来利用は米軍施設開放日を除いて想定されないが、キャンプ・シュワブ関係者の利用が想定される。</li> <li>・ 利用者数は不詳 (統計データなし)。キャンプ・シュワブ関係者の利用が想定されるため、キャンプ・シュワブ駐留軍従業員数222人を参考値とする。</li> </ul>
			h-2	米軍施設内広場2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 標高16m、傾斜3.09°。</li> <li>・ 現存植生は市街地。</li> <li>・ キャンプ地区の南にある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 米軍関係者に日常的な風景鑑賞、休憩の利用が想定される。</li> <li>・ 米軍施設内であるため、外来利用は米軍施設開放日を除いて想定されないが、キャンプ・シュワブ関係者の利用が想定される。</li> <li>・ 利用者数は不詳 (統計データなし)。キャンプ・シュワブ関係者の利用が想定されるため、キャンプ・シュワブ駐留軍従業員数222人を参考値とする。</li> </ul>

表-6.20.1.55 場の状態及び利用の状況 (5/5)

景観区分	地点	地点名	場の状態	利用の状況
海域	干潟	A-1	楚久川河口 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 標高0m、傾斜1.12°。</li> <li>・ 現存植生の情報は無い。</li> <li>・ 国道331号沿いにある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地元住民による日常的な風景鑑賞、潮干狩り、野鳥観察の利用がある。</li> <li>・ 視点は国道331号沿いに位置し、近傍に街区公園が整備されているが、外来利用者は少なく、地元住民による利用が主体である。</li> <li>・ 地元住民による利用がみられる。 (H20.4.1現在：二見区の人口85人)</li> </ul>
		A-3	潟原の干潟 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 標高13m、傾斜2.57°。</li> <li>・ 現存植生の情報は無い。</li> <li>・ 国道329号沿いにある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地元住民による潮干狩り、通過交通型の風景鑑賞等の利用が想定される。</li> <li>・ 国道329号沿いであることから、通過交通型の不特定多数の利用者が中心である。また、松田地区の地元住民の利用も見られる。</li> <li>・ 通過交通型の不特定多数の利用がある。 (H17平日24h、国道329号の交通量10,778台※)。 ※道路交通センサス</li> </ul>
	サンゴ		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 底質は岩礁で、サンゴ類が高被度で分布</li> <li>・ 大浦、安部の前面海域、中干瀬に分布</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域住民による日常的な利用はないが、浜下りの時期には利用がなされる。</li> </ul>
	藻場		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 底質は砂質、砂泥質で、アマモ類、ホンダワラ類などが高被度に生育</li> <li>・ 辺野古崎から西側にかけてのリーフ内に分布</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域住民による日常的な利用はないが、浜下りの時期には利用がなされる。</li> </ul>
	その他		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 調査範囲内に広く分布。サンゴ類等の被度は低い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 漁場、航路として利用されている。</li> </ul>



c) 景観区ごとの眺めの状況

景観区ごとの眺めの状況について、調査地点ごとの調査結果は表-6. 20. 1. 56～表-6. 20. 1. 58及び図-6. 20. 1. 80～図-6. 20. 1. 83に示すとおりです。

表-6. 20. 1. 56 眺めの状況 (1/3)

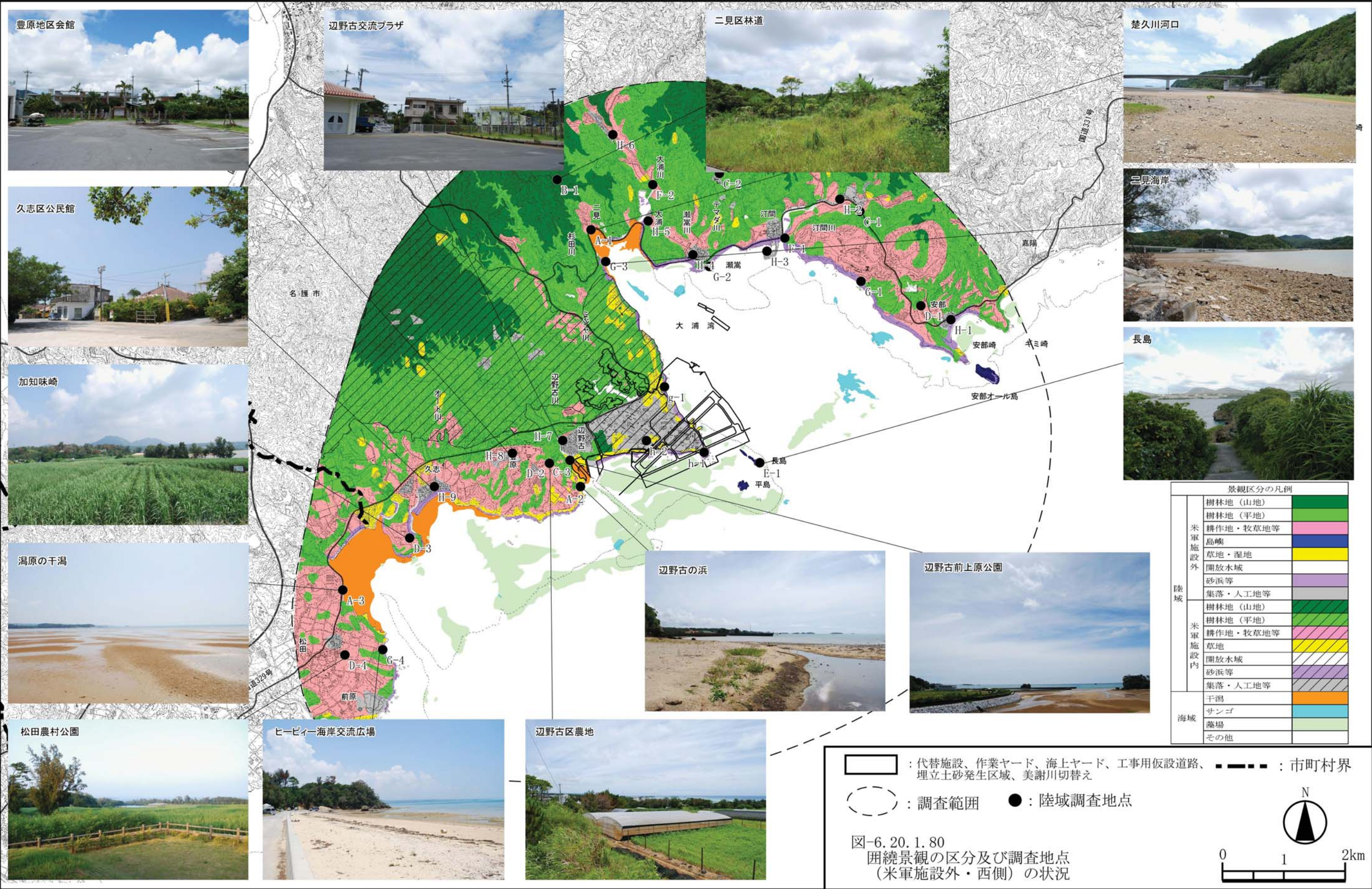
景観区分	地点	地点名	眺めの状態	
陸域 米軍施設外	樹林地(山地)	B-1	二見区 林道	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国道331号と県道18号線を結ぶ二見区の林道。周囲に民家等は無く、樹林が左右に延々と広がる。</li> <li>・ 事業実施区域が位置する代替施設方向の上空を臨む。視界は樹林であり開けていない。</li> </ul>
	樹林地(平地)	C-1	三原橋	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国道331号上の三原橋付近。汀間川が流れ、周囲には民家、その背後に樹林が広がる。</li> <li>・ 周囲には、農地(サトウキビ畑)も広がる。</li> </ul>
		C-2	瀬嵩林道	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 瀬嵩林道沿い。海岸寄りに名護学院があるが、それ以外に周囲に民家等は無く、樹林が左右に延々と広がる。</li> <li>・ 事業実施区域が位置する代替施設方向の上空を臨む。視界は樹林であり開けていない。</li> </ul>
		C-3	辺野古前上原公園	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 辺野古前上原公園付近。屋根付き休憩所や椅子・テーブル、トイレ、散策道等がある。脇を辺野古川が流れ、眼下には湿地が広がる。南東には辺野古漁港がある。</li> <li>・ 事業実施区域が位置する代替施設方向の上空を臨む。視界は開けている。</li> </ul>
	耕作地・牧草地等	D-1	安部区農地	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 安部区の農地周辺。周囲は樹林で、農地が広がる。</li> <li>・ 事業実施区域が位置する代替施設方向の上空を臨む。視界は樹林であり開けていない。</li> </ul>
		D-2	辺野古区農地	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 辺野古地区の農地周辺。海も近く、辺野古地区集落・豊原地区集落ともに近い。事業実施区域が位置する代替施設方向の上空の視界は開けている。</li> </ul>
		D-3	久志区農地	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 久志地区の農地(サトウキビ畑)周辺。海に近く、事業実施区域が位置する代替施設方向の上空の視界は開けている。</li> </ul>
		D-4	松田農村公園	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 松田農村公園。松田地区集落に近く、遊具も設置されている。事業実施区域が位置する代替施設方向の上空の視界は開けている。</li> <li>・ 公園の近傍には、松田地区公民館や松寿館が隣接する。</li> <li>・ 公園西側に広がる農地(サトウキビ畑)。樹林も広がる。</li> </ul>
	島嶼	E-1	長島	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 長島西部にある棧橋からは上り階段が灯台へと続いている。周囲は低木林である。</li> <li>・ 灯台からはさらに東へと上り坂が続き、頂上の岩山では360°の展望が開ける。</li> </ul>
	草地・湿地	A-2	辺野古の浜	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 辺野古地区の砂浜に広がる湿地。湿地の周囲には草地も広がり、さらにその周囲には樹林も広がる。海岸方向には代替施設及び作業ヤード(辺野古港)が見渡せる。</li> <li>・ 事業実施区域が位置する代替施設方向の上空を臨む。視界は開けている。</li> </ul>
	開放水域	F-1	汀間地区会館、嘉手苺橋	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 汀間川に架かる嘉手苺橋上より。左岸側は樹林となっている。南西方向はすぐに海で、代替施設が見渡せる。</li> <li>・ 嘉手苺橋下の砂地付近。汀間川が流れる。東側は社寺林である。</li> <li>・ 嘉手苺橋の西側にある汀間地区会館付近。地区会館、汀間区共同売店、拝所などがある。社寺林や屋敷林などの樹林のほか、集落も広がる。</li> <li>・ 左から嘉手苺橋下の砂地、汀間地区会館より事業実施区域が位置する代替施設方向の上空を臨む。嘉手苺橋下の砂地の視界は開けているが、汀間地区会館の視界は樹林であり開けていない。</li> </ul>
		F-2	大浦のマングローブ林	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大浦地区のマングローブ林北端。大浦川流域、県道18号線沿いにある。両端には樹林が広がる。</li> <li>・ 事業実施区域が位置する代替施設方向の上空を臨む。視界は樹林であり開けていない。</li> </ul>

表-6.20.1.57 眺めの状況 (2/3)

景観区分	地点	地点名	眺めの状態
陸域 米軍施設外	砂浜等	G-1	カヌチャビーチ ・ カヌチャリゾート内の砂浜。夏季には多くの利用がある。カヌチャリゾートホテルに隣接している。 ・ 事業実施区域が位置する代替施設方向の上空を臨む。視界は開けている。
		G-2	瀬嵩の浜 ・ 瀬嵩御宮の東に広がる砂浜。夏季には多くの利用がある。背後には樹林が広がっている。 ・ 事業実施区域が位置する代替施設方向の上空を臨む。視界は開けている。
		G-3	二見海岸 ・ 二見コミュニティセンターの崖下を下りた砂浜。大浦湾を一望できる。 ・ 事業実施区域が位置する代替施設方向の上空を臨む。視界は開けている。
		G-4	ヒービー海岸交流広場 ・ ヒービー浜交流広場の海側（東側）。樹林に囲まれ、海草が打ち上がっていることが多い。代替施設の眺望がある。 ・ ヒービー浜交流広場の陸側（西側）。芝生が植えられており、東屋やテーブル、ベンチ、トイレ等が整備されている。
	集落・人工地等	H-1	安部地区会館 ・ 安部地区会館と周囲の集落。屋敷林も見られる。地区会館のすぐ南は海岸である。 ・ 事業実施区域が位置する代替施設方向の上空を臨む。視界は樹林であり開けていない。
		H-2	三原地区会館 ・ 三原地区会館付近。背後には樹林が広がり、周囲には民家もある。 ・ 事業実施区域が位置する代替施設方向の上空を臨む。視界は樹林であり開けていない。
		H-3	汀間漁港 ・ 汀間漁港付近。汀間地区集落に近接する。代替施設の眺望がある。
		H-4	瀬嵩区公民館 ・ 瀬嵩区公民館付近。瀬嵩地区集落の中心にある。 ・ 公民館のすぐ脇には、遊具のある広場やゲートボール場、拝所・慰霊碑がある。 ・ 事業実施区域が位置する代替施設方向の上空を臨む。視界は建物等であり開けていない。
		H-5	大浦集落センター ・ 大浦集落センター付近。大浦地区集落の中心にある。すぐ南には、名護の名木に指定されているガジマルが、ガジマルを挟んだセンター向かいには、拝所がある。 ・ 事業実施区域が位置する代替施設方向の上空を臨む。視界は建物等であり開けていない。
		H-6	大川集落センター ・ 大川集落センター付近。東側に農地、西側に大川地区集落、南側にゲートボール場がある。 ・ 大川集落センター東側には農地があるほか、大浦川が流れている。 ・ 事業実施区域が位置する代替施設方向の上空を臨む。視界は樹林であり開けていない。
		H-7	辺野古交流プラザ ・ 辺野古交流プラザ付近。辺野古地区集落の中にある。公民館として利用されている。 ・ 事業実施区域が位置する代替施設方向の上空を臨む。視界は開けている。
		H-8	豊原地区会館 ・ 豊原地区会館は、豊原地区集落の中にあり、ゲートボール場が隣接し、眼下に運動公園が整備されている。 ・ 事業実施区域が位置する代替施設方向の上空を臨む。視界は開けている。
		H-9	久志区公民館 ・ 久志区公民館は、久志地区集落の中の県道13号線沿いにあり、すぐ南には海がある。 ・ 公民館前の広場には、体育館、名護の名木に指定されているガジュマルと、その向こうに共同売店がある。 ・ 事業実施区域が位置する代替施設方向の上空を臨む。視界は開けている。

表-6.20.1.58 眺めの状況 (3/3)

景観区分		地点	地点名	眺めの状態	
陸域	米軍施設内	砂浜等	g-1 米軍施設内 ビーチ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ キャンプ地区にあるビーチ。眼前に大浦湾を一望でき、手前には砂浜がある。</li> <li>・ 砂浜の背後には、駐車場が整備されている。東屋が設置されている。</li> <li>・ 事業実施区域が位置する代替施設方向の上空を臨む。視界は開けている。</li> </ul>	
		集落・人工地等	h-1	辺野古崎	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 辺野古崎付近。テニスコートとバスケットボールコートが整備されている。東屋も設置されている。</li> <li>・ 海岸沿いは草原がひろがっており、さらに海側は砂浜になっている。平島・長島に近く、安部オール島もよく見える。</li> </ul>
			h-2	米軍施設内広場2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 監督官事務所前の広場付近。小高い丘になっており、芝生広場が広がっている。</li> <li>・ 事業実施区域が位置する代替施設方向の上空を臨む。視界は開けている。</li> </ul>
海域	干潟	A-1	楚久川河口	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 楚久川河口に広がる干潟。すぐ背後には樹林が広がる。</li> <li>・ 干潟北側に整備されている公園があり、遊具とベンチが置いてある。</li> </ul>	
		A-3	潟原の干潟	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 松田地区の国道329号沿い。東の海側には潟原干潟が広がる。</li> <li>・ 景観資源である久志岳・辺野古岳・石岳がよく見える。事業実施区域が位置する代替施設方向の上空の視界は開けている。</li> <li>・ 国道の西側には宜野座カントリークラブがある。</li> </ul>	
	サンゴ			<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 陸上からの眺望はない。</li> <li>・ 岩礁にパッチ状にサンゴ類が分布している。</li> </ul>	
	藻場			<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 陸上からの眺望はない。</li> <li>・ 砂地にパッチ状に藻場の生育が見られる。</li> </ul>	
	その他海域			<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 調査範囲内に広範囲に広がる。</li> </ul>	

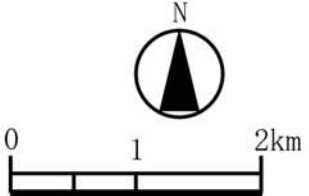


景観区分の凡例

陸域	米軍施設外	米軍施設内	海域
	樹林地 (山地)	樹林地 (山地)	干潟
	樹林地 (平地)	樹林地 (平地)	サンゴ
	耕作地・牧草地等	耕作地・牧草地等	藻場
	島嶼	草地	その他
	草地・湿地	開放水域	
	開放水域	砂浜等	
	砂浜等	集落・人工地等	
	集落・人工地等	集落・人工地等	

[ ] : 代替施設、作業ヤード、海上ヤード、工所用仮設道路、埋立土砂発生区域、美謝川切替え  
 [---] : 市町村界  
 [---] : 調査範囲 ● : 陸域調査地点

図-6.20.1.80  
 围绕景観の区分及び調査地点  
 (米軍施設外・西側) の状況



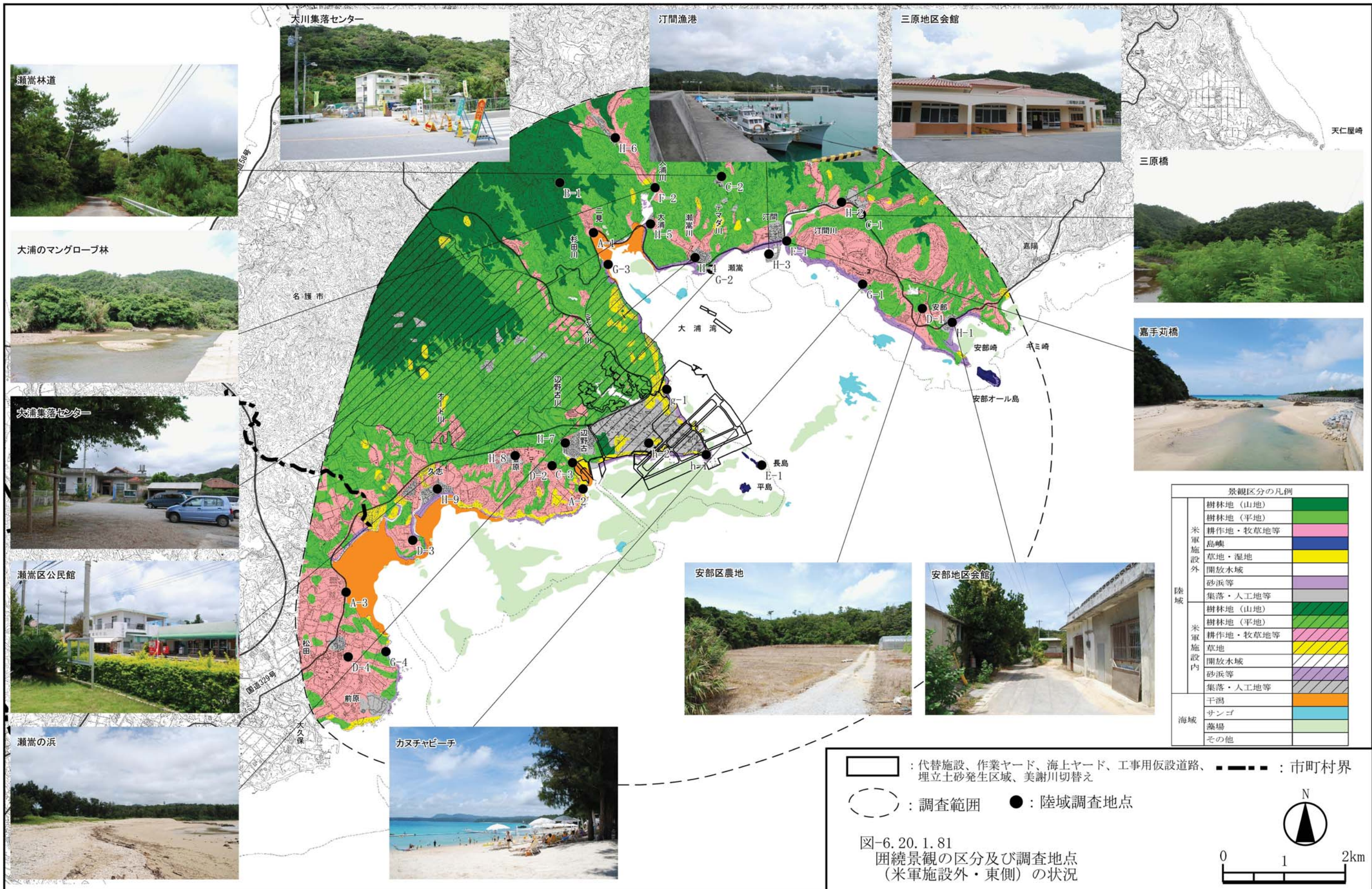


図-6.20.1.81  
 圍繞景観の区分及び調査地点  
 (米軍施設外・東側) の状況

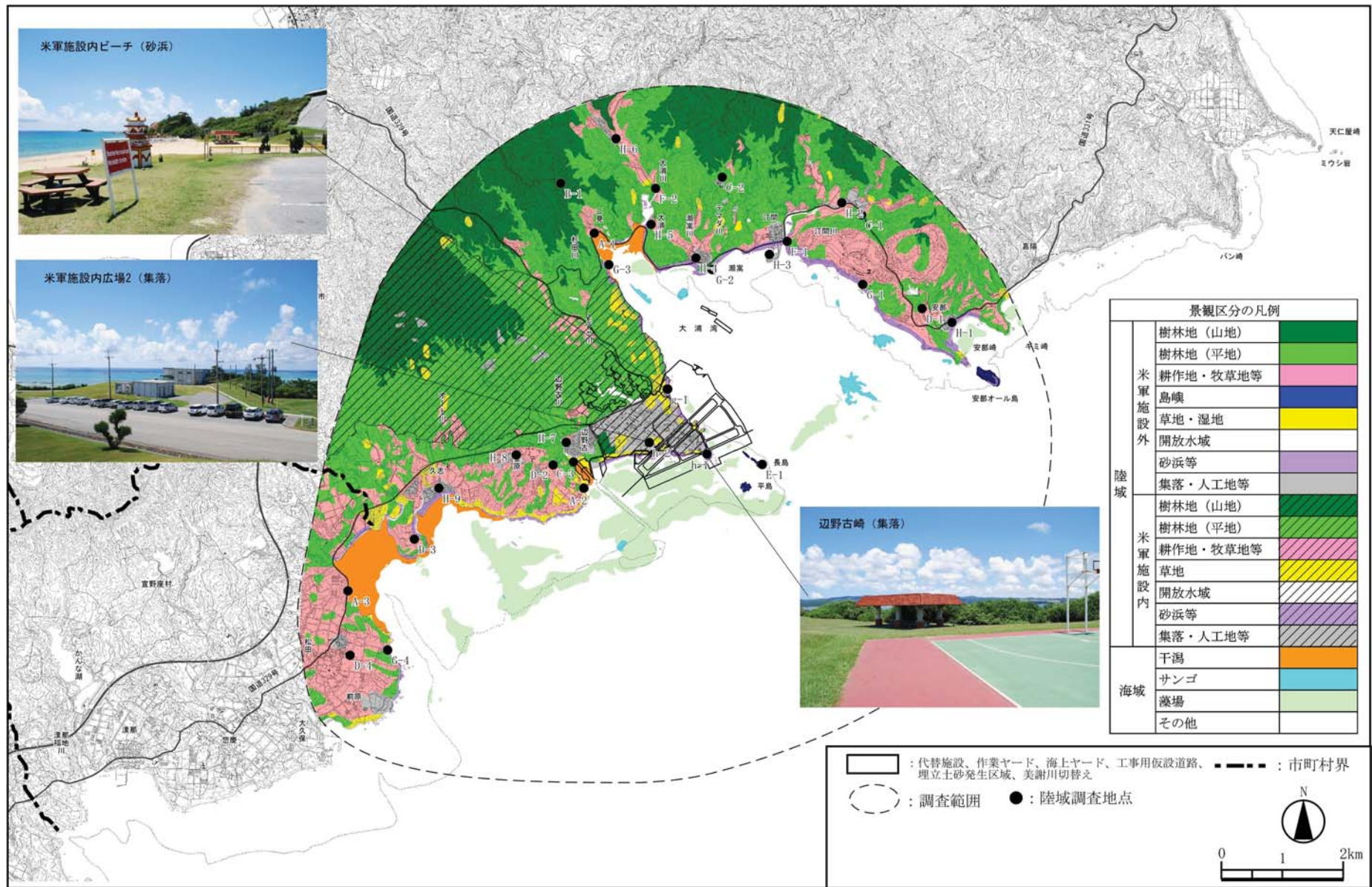
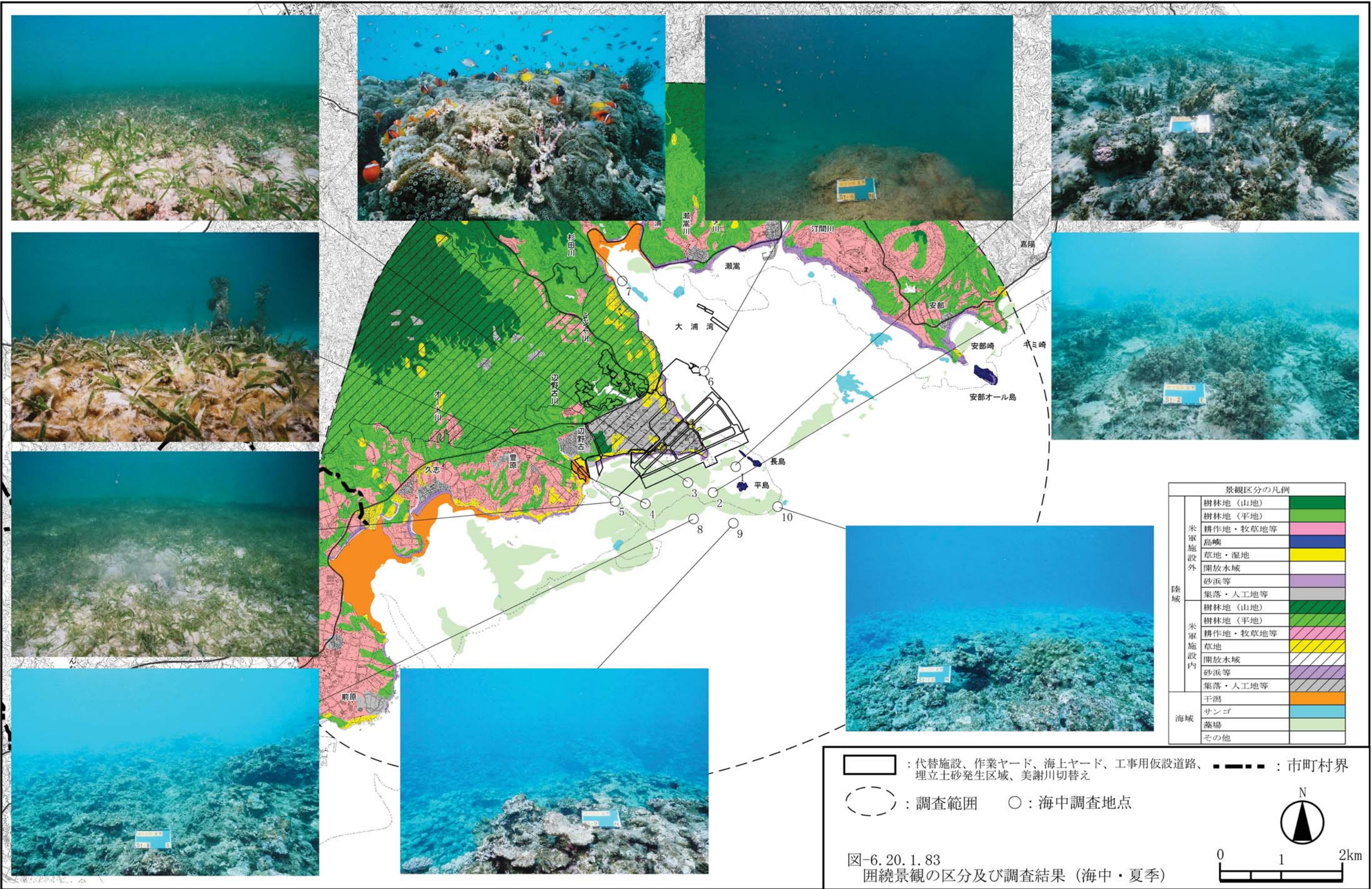


図-6.20.1.82 圍繞景観の区分及び調査地点（米軍施設内）

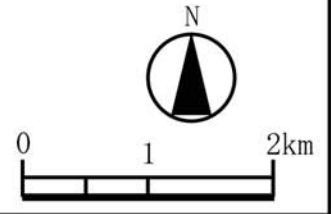




景観区分の凡例		
陸域	樹林地 (山地)	[Green with diagonal lines]
	樹林地 (平地)	[Light Green]
	耕作地・牧草地等	[Pink]
	島嶼	[Dark Blue]
	草地・湿地	[Yellow]
	開放水域	[Light Blue]
	砂浜等	[Purple]
	集落・人工地等	[Grey]
	樹林地 (山地)	[Green with diagonal lines]
	樹林地 (平地)	[Light Green]
米軍施設内	耕作地・牧草地等	[Pink]
	草地	[Yellow]
	開放水域	[Light Blue]
	砂浜等	[Purple]
海域	集落・人工地等	[Grey]
	干潟	[Orange]
	サンゴ	[Light Blue]
	藻場	[Light Green]
	その他	[White]

[White box] : 代替施設、作業ヤード、海上ヤード、工所用仮設道路、埋立土砂発生区域、美謝川切替え  
 [Dashed line] : 市町村界  
 [Dashed circle] : 調査範囲    [Circle] : 海中調査地点

図-6.20.1.83  
 围绕景観の区分及び調査結果 (海中・夏季)





#### d) 困繞景観の価値の把握

景観の価値については、普遍価値と固有価値について、次に示すような概念で価値を把握しました。

##### (ア) 普遍価値

普遍価値の認識項目としては審美性・自然性・多様性などがあげられます。調査範囲周辺の普遍価値の特性としては以下のような特徴があげられます。

- ・ 植生の特徴としては、山地から丘陵、台地部の大部分がイタジイ群落となっています。また、海岸付近にはリュウキュウマツ群落が点在しています。平野部である沖積低地や台地上には人為的影響が強く見られ、畑地、水田や市街地、造成地として利用されています。全体的に各種二次林や代償植生に覆われており、古くから人に利用されてきたことが伺われます。
- ・ これらの二次林などを利用する動物として、陸域部においてはリュウキュウイノシシ、ツミやフクロウ類、サギ類やカワセミなどの鳥類、ヘビ類等の爬虫類、カエル類等の両生類、オキナワトカゲなどの爬虫類、昆虫類、クモ類等などがあげられます。水域部においては、ミサゴ、サギ類やアジサシ類、カエル類、魚類、ヨコエビ類やカニ類などがあげられます。干潟やマングローブ林においては、サギ類などの鳥類やノコギリガザミ類等の甲殻類、ゴマフエダイ等の大型魚類、ジャノメハゼやミナミトビハゼ等の中型魚類、マングローブスズ等の昆虫類、クロベンケイガニ等の甲殻類等や、生産者としてオヒルギやメヒルギ等のヒルギ類、分解者としてコメツキガニやマドモチウミニナ、ゴカイ類等があげられます。

##### (イ) 固有価値

固有価値の認識項目としては固有性・歴史性・郷土性などがあげられます。調査範囲周辺の固有価値の特性としては以下のような特徴があげられます。

- ・ 当該地域の主な植生の特徴はイタジイ林を中心とした樹林地です。戦前から戦後まもなくにかけては、河川の両岸は水田として、丘陵地の谷間や斜面は階段状の耕作地として、山地樹林は薪取りや林産物採取など山仕事の間として利用されてきました。特に林産物は唯一の換金源であり、山は人々の暮らしに欠かせない産業の間でした。海岸線や集落周辺の台地にはリュウキュウマツが多く植林され、人々の遊び場や船からの目印となっていました。海域においては、リーフ内はマチやタマン漁、タコなどのほか、モズク等の海藻

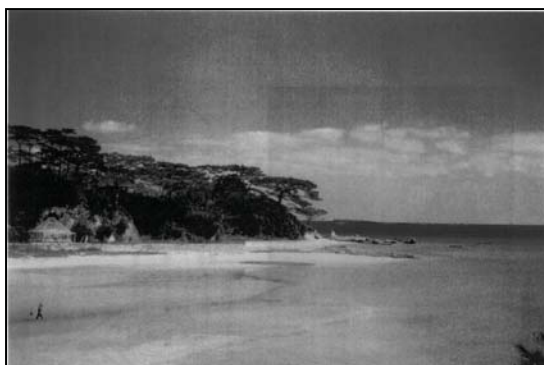
類を採取する非常に豊かな漁場でしたが、生業としての関わりは少なく、農耕の合間に必要に応じて魚介類を捕る生活圏として利用されていました。



二見集落の河川沿いの水田と斜面の階段状耕作地（1950年代）



嘉陽の薪の集積場（昭和35年頃）



辺野古の海岸線のリュウキュウマツ（昭和23年頃）

資料：上左写真及び上右写真 「名護市史・別巻1 写真集名護-ひとびとの100年(平成2年・名護市)」  
下写真 「辺野古誌（平成10年・辺野古区事務所）」

- ・昭和32年にキャンプ・シュワブの基地建設工事が始まり、辺野古岳、久志岳一体の山地・丘陵地が演習場となり、60年代ごろになると演習場区域への立ち入りが制限され、更に基地を中心にした商業や雇用型へと経済が移り変わり、石油燃料が台頭し薪の需要が落ちていったことなどから、現在では山地樹林は林業としての利用はあまりなされていません。海域については、戦後は潜水漁やダイナマイト漁、追い込み漁などが行われていましたが、現在ではモズク漁などが中心となっています。

地元住民の方へのヒアリングで得られた、陸域に係る調査地点ごとの価値を表す要素については表-6. 20. 1. 59に示すとおりです。

表-6. 20. 1. 59 眺望点及び視点場ごとの価値を表す要素

No.	地 点 名	固有性	歴史性	郷土性	備考：景観区分
A-1	楚久川河口			公園	干潟
A-2	辺野古の浜		アジバカー		草地・湿地
A-3	潟原の干潟	日の出		潟原	干潟
B-1	二見区林道				樹林地（山地）
C-1	三原橋			消防署、花壇、サトウキビ畑	樹林地（平地）
C-2	瀬嵩林道				樹林地（平地）
C-3	辺野古前上原公園	東屋	マナーヌ、平和之塔	平和之塔	樹林地（平地）
D-1	安部区農地			畑、インゲン	耕作地・牧草地等
D-2	辺野古区農地			農地	耕作地・牧草地等
D-3	久志区農地	久志岳			耕作地・牧草地等
D-4	松田農村公園	公共施設	あしびなー	あしびなー、公民館、農地	耕作地・牧草地等
E-1	長島			長島、灯台	島嶼
F-1	汀間地区会館、嘉手苅橋	神アサギ、サンカジョウ、ウタキグワー、	神アサギ、サンカジョウ、ウタキグワー、	神アサギ	開放水域
F-2	大浦のマングローブ林	マングローブ	マングローブ	マングローブ	開放水域
G-1	カヌチャビーチ		防風林、河川		砂浜等
G-2	瀬嵩の浜	五若森		五若森	砂浜等
G-3	二見海岸				砂浜等
G-4	ヒーピーー海岸交流広場				砂浜等
H-1	安部地区会館			公民館	集落・人工地等
H-2	三原地区会館			公民館	集落・人工地等
H-3	汀間漁港	漁港		漁港	集落・人工地等
H-4	瀬嵩区公民館		拝所、慰霊碑	公民館	集落・人工地等
H-5	大浦集落センター	拝所、ガジマル	拝所、ガジマル	ガジマル、公民館	集落・人工地等
H-6	大川集落センター	大浦川		大浦川、公民館、ゲートボール場	集落・人工地等
H-7	辺野古交流プラザ	公民館			集落・人工地等
H-8	豊原地区会館	公民館、運動場		公民館の「躍進」の碑	集落・人工地等
H-9	久志区公民館	ガジマル	ガジマル、体育館前広場	ガジマル、体育館、共同売店	集落・人工地等
g-1	米軍施設内ビーチ	米軍施設			砂浜等（米軍施設内）
h-1	辺野古崎				集落・人工地等（米軍施設内）
h-2	米軍施設内広場2	米軍施設			集落・人工地等（米軍施設内）

注) 空欄はヒアリングにおいて情報がなかった項目

また、地元住民の方へのアンケート調査で得られた景観区分ごとの価値の把握結果は図-6. 20. 1. 84及び図-6. 20. 1. 85に示すとおりです。

アンケートは、景観区分の現況写真を見ていただき、写真から受ける印象について5段階評価をするSD法で行いました。価値の評価に係る形容詞と数値割り当ては表-6. 20. 1. 60に示すとおりです。

普遍価値・固有価値ともに、樹林地（山地）や島嶼、開放水域などが高くなる傾向がみられました。

表-6. 20. 1. 60 価値の評価に係る形容詞と数値割り当て

調査項目	普遍価値			固有価値		
	審美性（総合指標）	多様性	自然性	固有性	歴史性	郷土性
景観の印象	美しい	複雑な	自然な	めずらしい	歴史を感じる	地域イメージに合っている
非常に	1	1	1	1	1	1
やや	2	2	2	2	2	2
どちらでもない	3	3	3	3	3	3
やや	4	4	4	4	4	4
非常に	5	5	5	5	5	5
景観の印象	美しくない	単調な	人工的な	ありふれた	歴史を感じない	地域イメージに合っていない

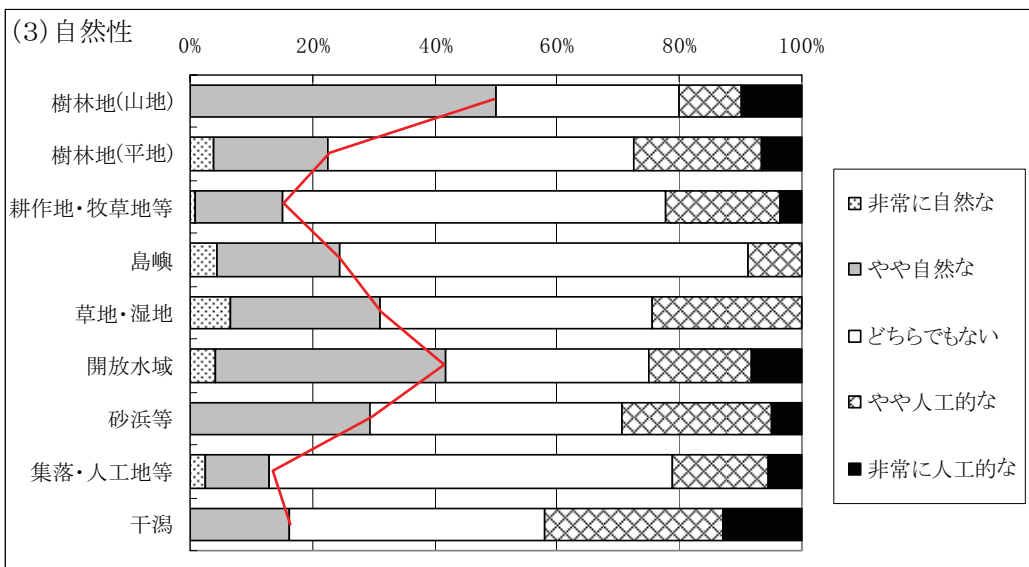
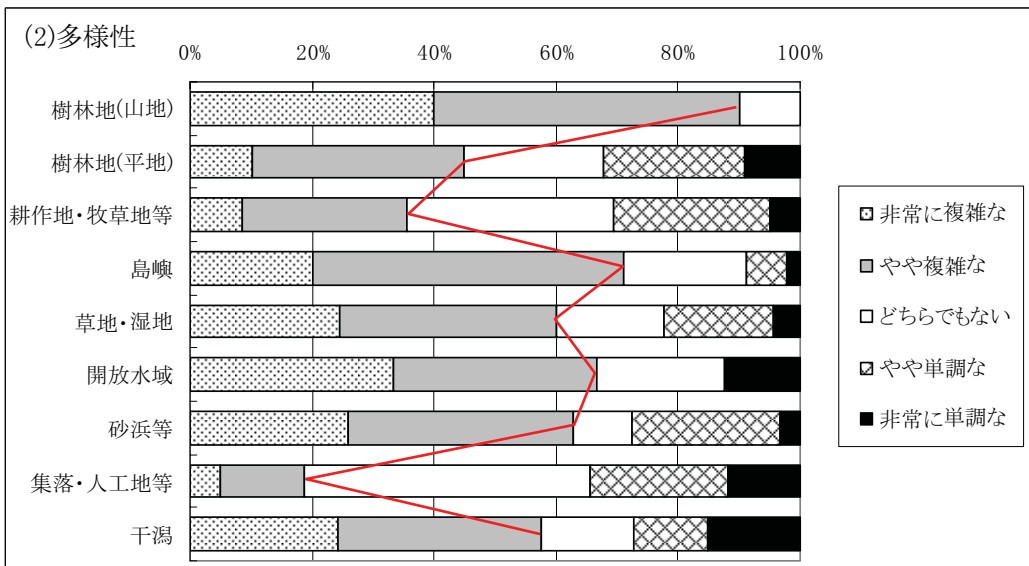
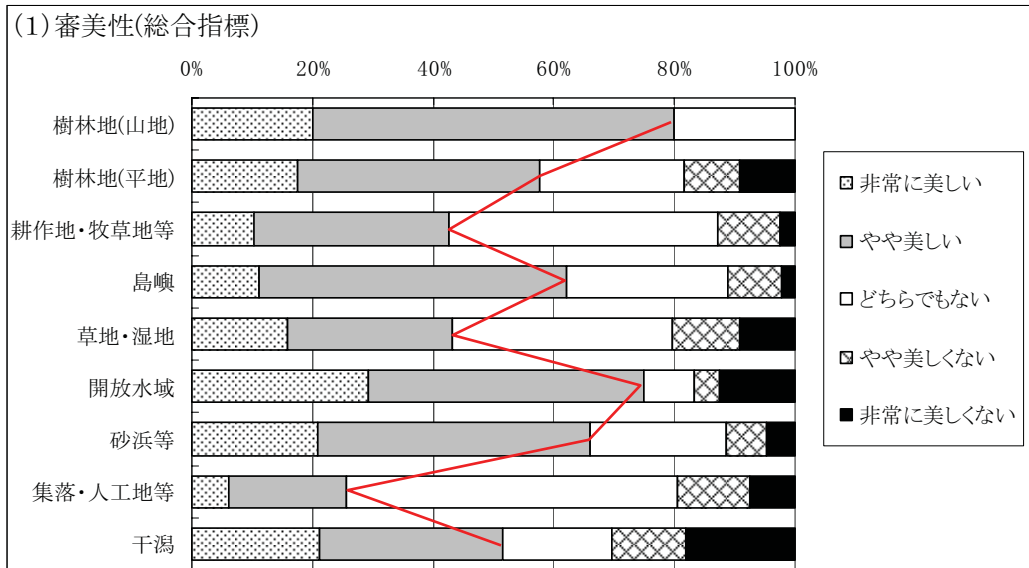


図-6.20.1.84 価値認識ごとのアンケート結果 (その1)

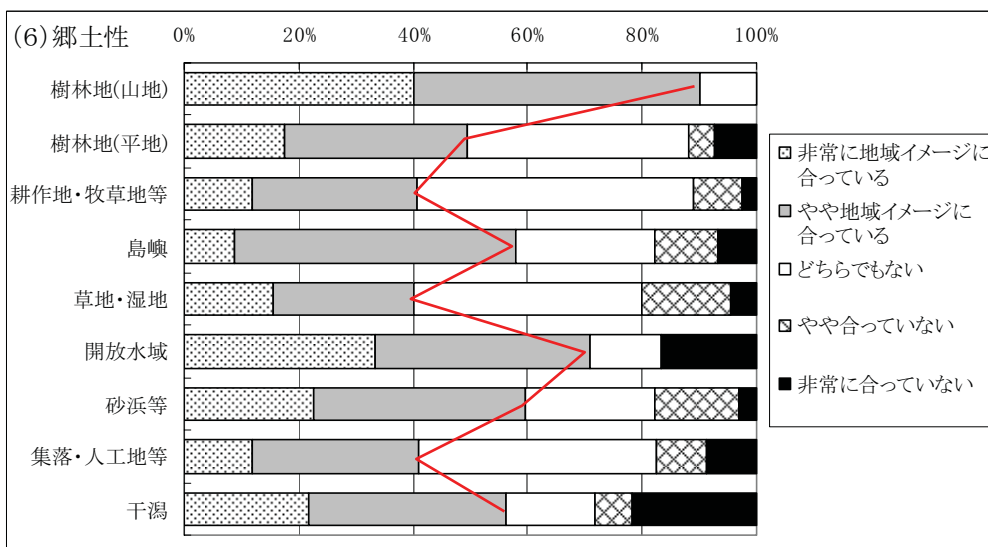
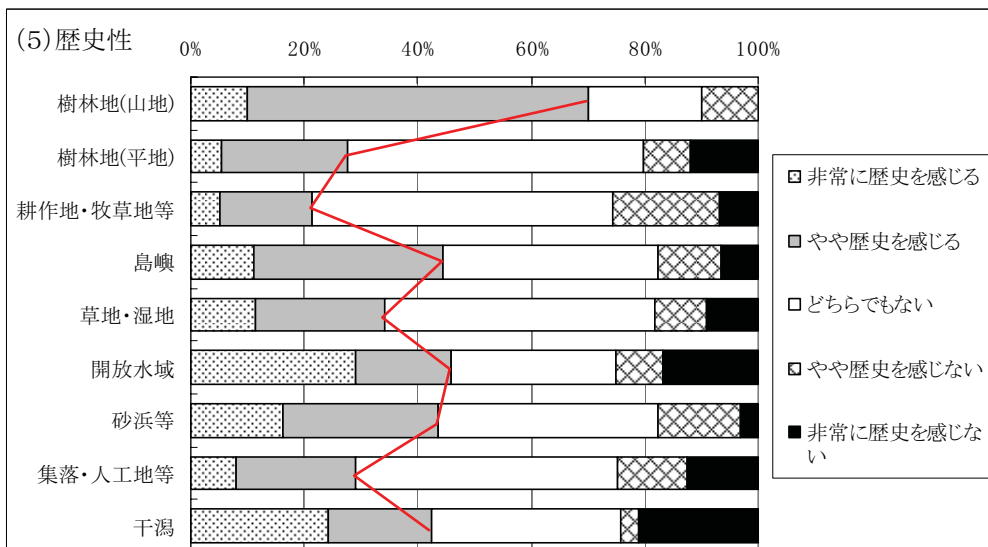
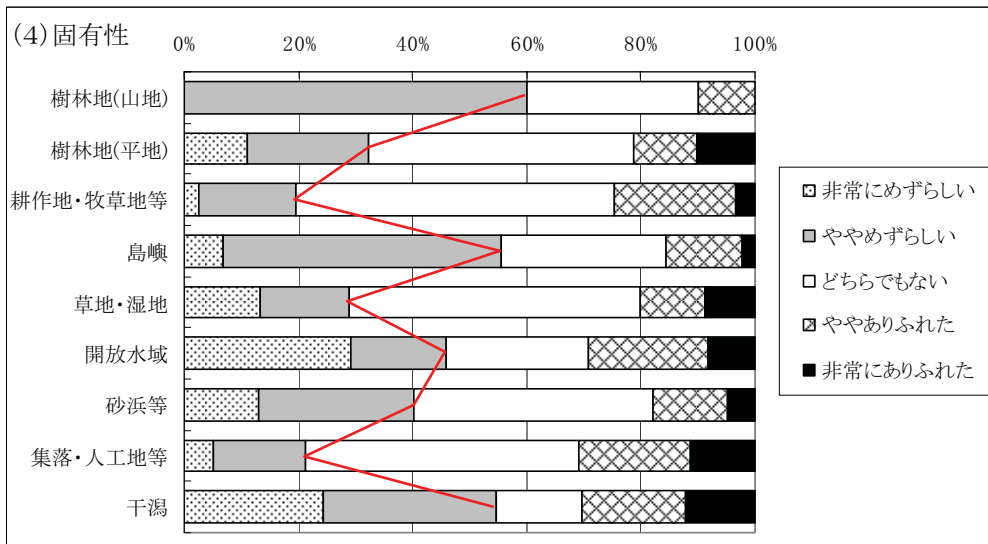


図-6. 20. 1. 85 価値認識ごとのアンケート結果 (その2)

これらの結果及び動植物の現地調査結果などから把握した各景観区分の価値については表-6. 20. 1. 61～表-6. 20. 1. 64に示すとおりです。

表-6. 20. 1. 61 景観区分ごとの価値 (1/4)

景観区分	普遍性		固有性	
	植生・土地利用	動植物の分布状況		
陸域 米軍施設外	樹林地 (山地)	二次林	自然度が高く、イタジイを樹冠とした環境です。イタジイやタブノキ、リュウキュウマツ等が優占し、林床にはシダ類多く生育し、樹林を好むオリオオコウモリやオキナワコキクガシラコウモリ、ツミ、フクロウ類、リュウキュウコゲラ、アマミヤマガラ、クロイワトカゲモドキ、アマミタカチホヘビ、ヒメハブ、イボイモリ、ハロウエルアマガエル等が生息します。また、やんばる的要素であるリュウキュウヤマガメやリュウキュウアカガエルもわずかですが生息します。普遍価値は高いものと考えられます。	イタジイを中心とした構成で、北部地域に特徴的な景観であり、固有性は高いものと考えられます。
	樹林地 (平地)	二次林植林地	伐採や災害等による倒木から自然更新されたイタジイやボチョウジ、イジュ等を樹冠とした環境や、人為的に移植したリュウキュウマツやモクマオウ類を樹冠とした環境です。樹林を好むオリオオコウモリやオキナワコキクガシラコウモリ、ツミ、フクロウ類、リュウキュウコゲラ、アマミヤマガラ、クロイワトカゲモドキ、アマミタカチホヘビ、ヒメハブ、イボイモリ、ハロウエルアマガエル等が生息します。普遍価値は中程度であると考えられます。	古くからの伐採などの影響を受けた二次林がほとんどで、固有性は低いものと考えられます。
		海岸樹林	海岸部に発達した環境で、塩分や風の影響を受けることから、アカテツやハマビワ、オキナワシャリンバイ等の耐潮性・耐風性の種が生育します。オカヤドカリ類、オカガニ類、海岸性のイソカナタタキや樹林性のオキナワキノボリトカゲやオキナワゴマフカミキリ、オキナワヤマタカマイマイ等が生息します。普遍価値は中程度であると考えられます。	
		マングローブ林	河川汽水域に発達する、ヒルギ類を樹冠とした環境で、他にシマシラキ等のマングローブ林特有の植物が生育します。林床にはカニ類や貝類が多く生息し、ミヅテアシハラガニやマドモチウミナ等はヒルギ類の落ち葉を餌として利用しています。また、ホシマダラハゼやジャノメハゼ等の汽水魚が水路や周辺に生息し、クサフグ等の海水魚も一時的に見られます。普遍価値は中程度であると考えられます。	
	耕作地・牧草地等	人為的改変が大きい環境で、ウコン等の逸脱種やハイキビ、タチアワユキセンダングサ、タチスズメノヒエ等が生育し、乾燥に強いシロアゴガエルやリュウキュウカジカガエル、草地を好むワタセジネズミ、オキナワハツカネズミ、セッカ、アオカナヘビ、オキナワトカゲ、バッタ類、チョウ類等が生息します。スズメやシマキンパラがイネ科植物等の種子を、ネズミ類や昆虫類をチュウサギやチョウゲンボウ、シマアカモズ、リュウキュウイノシシ等が餌として利用します。普遍価値は低いものと考えられます。	人為的影響が大きく、地域性も特になく、固有性は低いものと考えられます。	
島嶼	島嶼	平島や長島等の島や岩礁からなる環境で、陸地からは海で隔離されており、更に塩分の影響があることから、生物相は限定されます。アダンやクサトベラ等の耐潮性のある種が生息し、オカヤドカリ類・オカガニ類が生息します。アダンの実を食べにオリオオコウモリが飛来しますが、爬虫類は少なくウミヘビ類が繁殖に利用します。両生類は生息せず、昆虫類でウスモンウミコオロギ等のわずかな種が生息します。普遍価値は中程度であるものと考えられます。	平島・長島などの島嶼はこの地域のシンボリックな景観であり、固有性は高いものと考えられます。	

表-6.20.1.62 景観区分ごとの価値 (2/4)

景観区分		普遍性		固有性	
		植生・土地利用	動植物の分布状況		
陸域	米軍施設外	草地・湿地	湿地	淡水により冠水、あるいは定期的に覆われる環境で、ヒメガマやチゴザサ等の湿地性の種が生育します。カエル類やオオシオカラトンボ等の止水性トンボ類、海域に近い場所ではカニ類が生息し、これらをアカマタやヒメハブ、サギ類が餌として利用し、リュウキュウヨシゴイやバンが繁殖地として利用します。普遍価値は中程度であると考えられます。	伐採などの影響を受けた二次的な環境が多く、固有性は低いものと考えられます。
			草地	刈り込み等の定期的な管理により維持される環境で、シバやチガヤ、クグテンツキ等が生育し、乾燥に強いシロアゴガエルやリュウキュウカジカガエル、草地を好むワタセジネズミ、オキナワハツカネズミ、セッカ、アオカナヘビ、オキナワトカゲ、バッタ類、チョウ類等が生息します。スズメやアオジがイネ科植物等の種子を、ネズミ類や昆虫類をチュウサギやチョウゲンボウ、シマアカモズ、リュウキュウイノシシ等が餌として利用します。普遍価値は低いものと考えられます。	
	開放水面	ダム湖湖沼	ダムや池沼、溜め池等の止水環境で、ミシシippアカミミガメやスッポンといった水生カメ類、両生類、ギンブナやメダカ等の魚類、トゲナシヌマエビ、ヒラマキモドキ、ゲンゴロウ類、水生カメムシ類、止水性ヤゴ類が生息します。また、これらの水生生物を狙ってサギ類やミサゴ、カワセミが飛来します。普遍価値は中程度であると考えられます。	地域性や歴史性などは特にはないが、アンケートの結果を考慮し、固有性は中程度であると考えられます。	
		河川	水系の発達した河川環境で、上流の渓流域では、リュウキュウトンボやリュウキュウオオイチモンジシマゲンゴロウ、マダラゴキブリ等の渓流性昆虫類やボウズハゼ類やヨシノボリ類、アラモトサワガニ、ヒラテテナガエビ等の流水域を好み、堰堤や砂防ダムを越えられる種が生息し、河岸部にはキムラグモ類の巣穴が見られます。中～下流域ではオオウナギやオオクチュゴイ、グッピー、コンジテンテナガエビ、モクズガニ、オオシオカラトンボ、カワニナ、イシマキガイ等が生息します。リュウキュウイノシシやサギ類、ミサゴ、カワセミがこれらの水生生物を餌として利用します。普遍価値は中程度であると考えられます。		
	砂浜等	砂浜・岩礁	海岸部の砂浜や岩礁部からなる環境で、潮の満ち引きや塩分の影響を受けます。クサトベラやグンバイヒルガオ等の耐潮性の種が生育し、オカヤドカリ類やオカガニ類、ハマベハサミムシやオキナワシロヘリハンミョウ等の砂浜や波打ち際を好む昆虫類が生息・繁殖場所として利用しています。シギ・チドリ類やサギ類が採餌し、アジサシ類が休息に利用します。塩分に弱い両生類は生息せず、哺乳類や爬虫類の生息もわずかですが、ウミヘビ類が繁殖に利用します。普遍価値は中程度であると考えられます。	地域性や歴史性などは特にはないが、アンケートの結果を考慮し、固有性は中程度であると考えられます。	
集落・人工地等	集落・人工地	住宅や漁港、道路等の人工物が主で、街路樹や庭木、公園や拝所等にアカメガシワやモモタマナ、タイワンクズ等が生育します。街路樹や庭木になる果実等を目的にオリイオオコウモリやキジバト、シロガシラ等が飛来し、ネズミ類やワモンゴキブリ等が人間の生活空間を利用して生息します。普遍価値は低いものと考えられます。	人為的影響が大きく、地域性・歴史性などは特になく、固有性は低いものと考えられます。		



表-6.20.1.63 景観区分ごとの価値 (3/4)

景観区分		普遍性		固有性
		植生・土地利用	動植物の分布状況	
陸域	米軍施設内	樹林地 (山地)	米軍施設外-樹林地 (山地) と同様であると考えられます。	イタジイを中心とした構成で、北部地域に特徴的な景観であるが、一般の利用はなく固有性は中程度であると考えられます。
		樹林地 (平地)	米軍施設外-樹林地 (平地) と同様であると考えられます。	伐採などの影響を受けた二次林がほとんどで、一般の利用はなく固有性は低いものと考えられます。
		耕作地・牧草地等	米軍施設外-耕作地・牧草地等と同様であると考えられます。	人為的影響が大きく、地域性も特になく、一般の利用はなく、固有性は低いものと考えられます。
		草地	陸域-米軍施設外-草地・湿地の草地と同様であると考えられます。	伐採などの影響を受けた二次的な環境が多く、一般の利用はなく、固有性は低いものと考えられます。
		開放水域	米軍施設外-開放水域と同様であると考えられます。	地域性や歴史性などは特になく、一般の利用もなく、固有性は低いものと考えられます。

表-6.20.1.64 景観区分ごとの価値 (4/4)

景観区分		普遍性		固有性
		植生・土地利用	動植物の分布状況	
陸域	米軍施設内	砂浜等	米軍施設外-砂浜等と同様であると考えられます	地域性や歴史性、郷土性などは特になく、一般の利用もなく、固有性は低いものと考えられます。
		集落・人工地等	米軍施設外-集落・人工地等と同様であると考えられます	人為的影響が大きく、地域性・歴史性、郷土性などは特になく一般の利用もなく、固有性は低いものと考えられます。
海域	干潟	干潟	干潮時に現れる砂泥質の環境で、アオノリ属、アオサ属、フデノホ等などの海藻が生育し、オキナワハクセンシオマネキやミナミコメツキガニ、ミナミオサガニ等の甲殻類やカヤノミカニモリやリュウキュウウミニナ、イソハマグリ等の貝類が多く生息します。サギ類やシギ・チドリ類、ハシブトガラス等の鳥類がこれらの水生生物を餌として利用します。爬虫類のウミヘビ類が満潮時に出現します。普遍価値は高いものと考えられます。	地域性や歴史性などは特にはないが、アンケートの結果を考慮し、固有性は高いものと考えられます。
	サンゴ	サンゴ類被度25%以上	サンゴなどが高い被度で分布し、サンゴ礁を利用する生物が多数生息しています。普遍価値は高いものと考えられます。	地域性や歴史性などは特にはないが郷土性が高いものとして固有性は中程度であると考えられます。
	藻場	海草ガラモ類被度25%以上	アマモなどの海草類やホンダワラ類などのガラモ類が高い被度で分布し、それを利用する生物が多数生息しています。普遍価値は高いものと考えられます。	地域性や歴史性などは特にはないが郷土性が高いものとして固有性は中程度であると考えられます。
	その他の海域	海域	サンゴ類や海草藻類の被度は低く、主に砂地や岩礁地。普遍価値は中程度であると考えられます。	地域性や歴史性、郷土性などは特になく、固有性は低いものと考えられます。

(e) 車窓景観の状況

調査地点は、図-6.20.1.86に示す10地点としました。

撮影地点高さは普通乗用車の目線として地上1.2m、観光バスの目線として地上2.5mとしました。

調査地点からは、晴天時の昼間を基本として、夏季、秋季、冬季の3季にわたり、朝・夕方・夜間の時間帯別及び降雨時に撮影を行いました。

各調査地点からの撮影結果について、季節間及び日中の撮影時間帯における違いはほとんどなかったことから、代表として夏季昼間及び夏季夜間の撮影結果を図-6.20.1.87及び図-6.20.1.88に示しました。

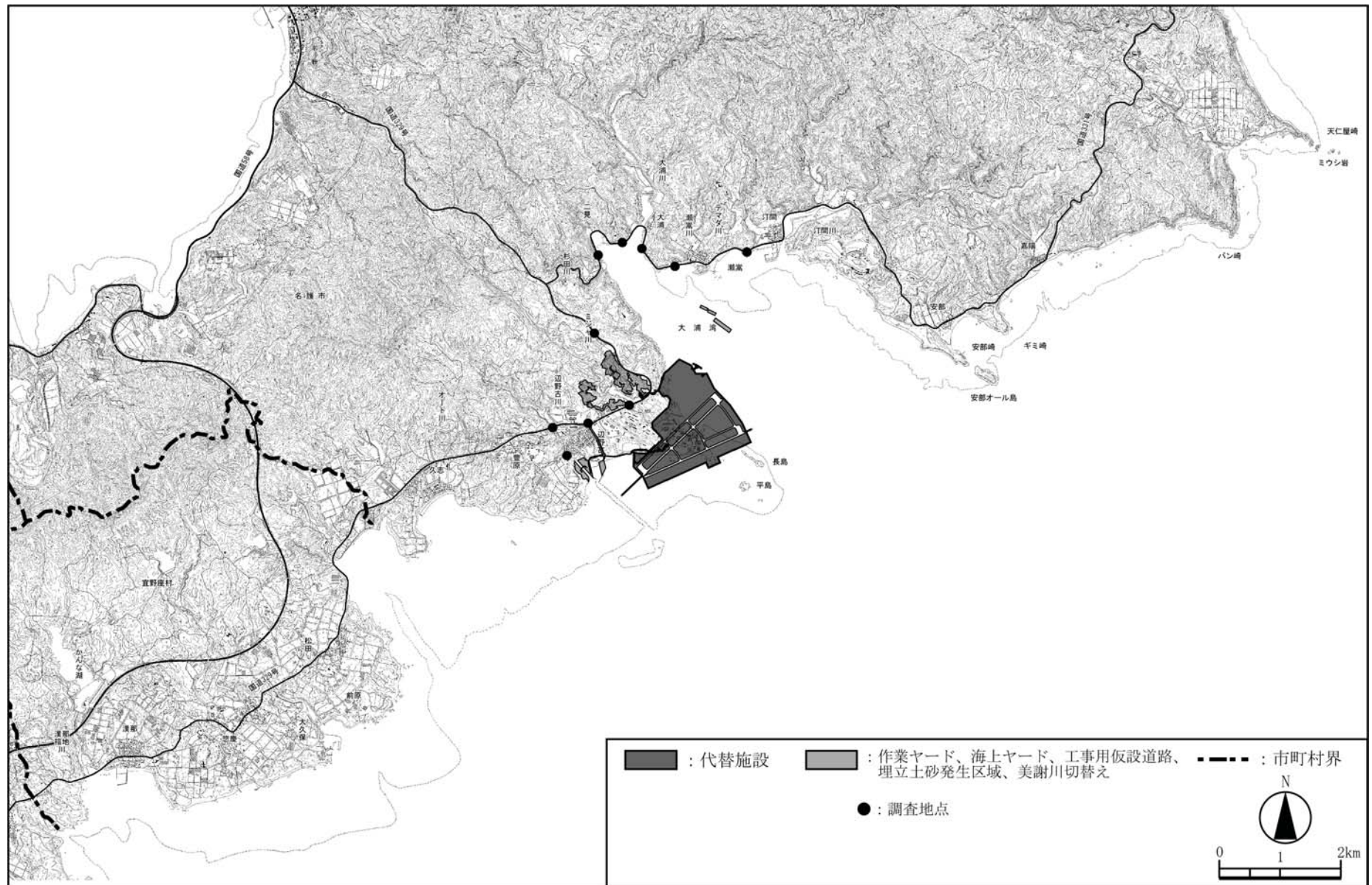


図-6.20.1.86 車窓景観の調査地点